

武蔵野市エコプラザ（仮称）検討市民会議（第 6 回） 議事要録

日 時 平成 29 年 9 月 1 日（金）19：00～21：00

場 所 武蔵野市役所 412 会議室

出席者 委員 13 名、事務局 4 名

小澤（紀）委員長、鈴木（雅）副委員長、大沢委員、大谷委員、
小澤（里）委員、上吉川委員、木村委員、塩澤委員、志賀委員、
鈴木（圭）委員、田中委員、村井委員、郡委員

議 事 等 1 視察報告

2 運営のあり方について

1 視察報告

発言者	要旨
事務局	8 月 3 日に実施した視察について、資料 1「愛知県豊田市とよたエコフルタウン・エコット・土橋小学校の視察について」をもとに報告。
委員長	参加した人から参加できなかった人へ、感想などをお話しいたきたい。
委員	<p>エコットの入口に大きなプラスチックのごみを固めたキューブが置いてあり、結構重く、インパクトがあった。それを見てプラスチックに興味湧き、プラスチックごみの処理の現状を調べてみた。</p> <p>プラスチックとして出されるごみの量は増えているのに、ペットボトル以外は燃料になり、再生されていない。業界では石油の 3%がプラスチックの生産に使われているとアナウンスしている。成分の違いなども複雑化していて、どんだんごみが膨らんでいるのに、そのことを勉強する機会がない。</p> <p>視察当日、子どもたちの就労体験イベントがあり、プラスチックをリサイクルしたものを素材として使っていた。クリエイティブリユースはプラスチック素材が重要なので、外国の素材を新クリーンセンター周辺・整備協議会で調査したが、外国では、学校教材としてセットで販売する事例があった。そうした繋がりを考えると、プラスチックは結構大きなテーマだと感じた。</p> <p>子どものイベントは、武蔵野でもミニタウンをやっていたが、外国のチルドレンミュージアムと似ていると思った。</p>
委員長	<p>日本に来ると、ごっこ遊びの延長になりがち。ドイツのミニミュンヘンともアメリカのチルドレンミュージアムとも少し違う。</p> <p>プラスチックの成分・素材まで学ぶことについては、多様化する素材をどう理解したら良いかという発想が大切で、ごみをごみにするイベントはやらない方が良いと思う。</p>

委員	<p>エコフルタウンは、自動車産業が盛んな故に、公共交通が衰退しているということが、非常に印象的だった。</p> <p>エコットは最寄駅から2.5 km、最寄りのバス停からも徒歩20分かかり、すぐに行けるような場所ではなかった。一方、武蔵野市はコンパクトなまちで、エコプラザは市役所やクリーンセンターとの距離も近いことを考えると、交通面での課題はクリアできると思った。</p> <p>インタープリターの育成講座については、10年目と聞いたが、広報やSNSなどで募集をしているが、昨年度の受講生は、たった13名しかいなかったと聞いた。年を重ねることによってメンバーも固定化し、課題があると感じた。</p>
委員長	<p>どこの施設でも課題になっている、世代交代をどうするか皆さんにも考えていただけるとありがたい。</p>
委員	<p>エコフルタウンは、いろいろなものがきれいにできていて、分かりやすく話してくださった。ただ、きれいなものを見て、きれいな話を聞くので、一瞬分かったような気がただけで、スルッと通り過ぎてしまう感じがした。</p> <p>エコットの方は、逆に、手づくり感満載で、ひとつひとつを噛みしめるような空気があって、2つの施設を対比して感じる事ができた。</p> <p>エコフルタウンについては、持続可能かについて話があったが、なかなか難しいと聞いた。きれいに作り上げた施設で、きれいな制服を着た方が案内してくださって、このまま続けていくことは難しく、一気に止めてしまうことになるのではないかと感じた。地に足をつけた形でやらないと、きれいさを追求するのは問題だと感じた。</p>
委員長	<p>同じように感じた方もいたのではないかな。</p>
委員	<p>3箇所とも大変意義があった。エコフルタウンは他のまちでも見ることでできる内容であったが、中身は興味深かった。</p> <p>エコットは、昨年、30,000人の来館者があったと説明で聞いたが、それだけの人を集めるということは、それだけの実績があるということだと思う。多くの写真を撮ってきたので、じっくり精査してエコプラザの各論の議論の参考にしたい。トヨタ自動車のまちなので、エコットもその辺りが見え隠れし、企業のバックアップがあることが見えた。</p> <p>武蔵野市は武蔵野流で、武蔵野方式でやったと思われるようにできると良い。</p>
委員	<p>印象に残ったのは施設ではなく、豊田市が運営しているエコポイントで、上手に使われていると思った。講座等に参加した方にポイントを付与したり、ボランティアで活動された方に、その対価としてポイントを付与したりして、ポイントが貯まると、有料ゴミ袋やエコバッグ等と交換できる仕組みになっている。施設の集客のインセンティブとしても、上手に使っていると思った。</p> <p>当日のキッズイベントについても、ほぼ予算をつけずに、日々のランニング</p>

	<p>コストの中で消化できる範囲で、たくさんの子どもを集客しており、上手にやっていると感じた。</p> <p>帰ってきて調べてみたら、東京でもポイントシステムを使っている自治体がいくつかあり、近隣では、八王子市や中野区でも実施していた。こうしたシステムを運用すれば、集客のきっかけになると思った。</p>
委員	<p>エコットのインタープリターが展示の企画や、演劇、イベント等のアイデアを出し、中心になって実施する仕組みがすごく上手くできていた。</p> <p>インタープリターを募集して、いろいろとやっているとトレーニングし、モチベーションを上げていくことは大切な作業だと思う。市民を巻き込んで活動に繋げてくれているNPOの取り組みは、地道で見えにくいですが、その動きを、市は評価しないといけないと思う。</p>
委員	<p>一番感心したのはエコットキッズタウンに税務署があったこと。所得税を10%払い、それを公共事業に使うということだった。環境のことを考えると、税のことは考えないといけないと思っているが、それを子どもの頃から学ぶのは良いことだと思う。</p> <p>エコットよりも渡刈クリーンセンターでの宿泊体験や煙突に登る体験などが面白いと思った。これも、NPO法人への委託の効果だと思う。本市の新クリーンセンターでも参考になると感じた。</p>
委員	<p>エコフルタウンはショールームの印象で、参考にはなったが実用性がどこまであるのかなと思った。</p> <p>エコットについては、クリーンセンターの運営委員として、いろいろな施設へ視察に行っているが、ごみ焼却場は、人の住んでいない市境に建っている場合が多い。渡刈クリーンセンターも、最寄り駅やバス停から遠かったが、人がよく集まってきていた。車がとても多い社会なのだなと思った。</p> <p>一番気になったのは運営協議会がないことで、これまで行った施設の中では初めてだった。それでもエコットキッズタウンのような活動ができるのだと思った。インタープリターも、子どもの作品も、経験したことを人に伝えるためには、自分たちでつくるのがとても大切。よくできていて、それぞれ工夫しているところが良かった。それなのに、インタープリターのなり手が少なく、子どものインタープリターは制度がなくなってしまったのはなぜかと感じた。なり手については難しい問題で、気になった。</p>
副委員長	<p>エコフルタウンは企業のショールームで、企業倫理を超えられない。例えば車社会を否定する意見は出てこない。そういう施設を公でつくるのは難しいと思う。</p> <p>エコットは地道に工夫しているが、一番気になったのはインタープリター。もともとはアメリカの自然公園の解説員で、声を発しない自然の声を聞いて、</p>

	<p>それを人間の言葉に通訳する専門家。相手が声を発しないことについてどうするかということで、台本やマニュアルがあるものではない。ここでは声を発しないものが対象ではないので、相手の疑問を引き出す、そういうことが大事だと思う。形骸化したり、型にはまったりするとインタープリターではなくなってしまう。ガイド・説明員を言い換えているに過ぎないという語弊があるが、武蔵野市では、地道にやれば良いと思う。</p>
委員長	<p>インタープリターを主導したところは中部リサイクル運動市民の会。市民の会の運営トレーニングをした方が市民NPOに残っていたが、昨年、新たな方が採用された。学びに来た人が、自分でどう問いを発し、家に帰ってからも生活の問いを発するところまでいけば、インタープリターとしては成功だと思う。知識を与える形のインタープリターには限界があり、今回の受講者が13人に留まったということだと思う。</p> <p>きれいな形になると日本の社会は問いが発せられなくなる。クリーンセンターがきれいな施設になり、市民参加のベースが見えなくなった。迷惑施設であったところに、武蔵野市では、40年以上前の松下圭一先生の哲学をベースとした住民参加が根付いている。その成果として、市が地域の方とクリーンセンターをつくり、新しいクリーンセンターに繋げ、エコプラザができるということに大事にしないといけない。環境省の方がクリーンセンターの見学に来られたが、日本の企業は高性能の機械をつくることのできるの、海外輸出を考え、それを視野に入れて来られた。形と本質の違いを見ぬくことが大事だと思う。</p>
委員	<p>資料2では、エコットのインタープリターの人数は69人と記載してあるが、昨年の募集の応募者が13人いて、登録者全体で70人ほどいるということか。</p>
委員長	<p>そのとおり。全員が毎日来ているのではなく。入れ替わりで来ている。</p>
委員	<p>インタープリターの方たちはリタイアされた方や高齢層にかなり偏っているということではないのか。</p>
委員長	<p>「えこつくる江東」も同じような構成になっている。今は若い人でも環境生活に関わっている人がいるので、全ての施設において、そう言えるかは分からない。</p>
委員	<p>エコットやエコプラザなどの施設の評価をする場合、行政はどういった点を評価するのか。数字で出せる来場人数などはわかるが、民間のサービスだと質の評価も入る。普及化はやったが啓発の効果があつたかという評価をしているところがあるのか。資料2を見る限り、品質の評価については載っていない。</p> <p>また、プラスチックのリサイクルマークが複雑になっていてわからないという意見があつたが、自分の世代では学校教育では学ばなかった。学んでないが、必要だということが、90年代以降増えたように思う。30代、40代の現役世代も知っておかねばならない環境知識があると感じた。</p>

<p>委員長</p>	<p>素材の知識を得ることが、本当の学びに繋がるかどうか。素材がどうリサイクル、リユースされているかを学ぶ必要があるのか、もっと本質的なところの学びが必要なのか、この視察もその辺が問われていると思う。</p> <p>啓発の質・効果については、これから考えていかななくてはいけない。あらゆるところで問われていること。来場者だけでよいのか。本質的な学びが問われている時代に、それで良いのかということ。</p>
<p>委員</p>	<p>市の事務事業評価では、施設をつくった場合、5年経ったところでアウトプットとアウトカムの評価を行う。もうひとつは、事業主体が行政なのか民間で代替機能がないのかという評価を行う。A4シートで両面程度の項目の評価。</p> <p>アウトプットとしては、単純に来場者数にかけたコストをひとり当たりで割る。民間でやっている事業との比較。アウトカムとしては、その事業をしたことで、環境で啓発されて、次の行動に移ったとか、そこで起こったことが次の何かに繋がったなどを評価するが、シビアな評価になり、特にコスト的に行政直営になると、かなり厳しい評価になる。</p> <p>エコプラザを開設し、なるべく多くの方に来ていただきたいし、次の世界に繋がっていくようにする必要がある。一面的なアウトプットで評価してしまうと、単純にコストをかけすぎだとか、来場者が少ないとなるので、みなさんの知恵をいただいて、多くの方に学んでもらい、次に繋がる良い施設にしたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>30代から40代に向けた環境教育が必要なのではないかと考えている。その世代の方が子どもを連れてくるが、子ども向けの啓発プログラムを用意しているので、本質的な知識を伝えられない。30代、40代の方が気候変動をどのくらい知っているかという、ほとんど知らない状況がある。リタイアした方と子ども対象以外の啓発も必要だと感じた。</p>
<p>委員長</p>	<p>気づきはいろいろな施設であるが、行動変容までを測れるかどうか、学校教育でも同じだと思う。知っただけでは、学びにはならない。また、学びの対象は、私たちの世代が考えている子ども、若者、30・40代、50代のそれぞれのイメージと、現実のその世代とでは、差が大きくなっていると感じている。そこを誤ると評価システムも違ってきてしまうと思う。その辺もエコプラザの議論の中でできたらと思っている。</p> <p>日本人は学び方を学んでないので、自分で自分に問うということをしない。若い親も知識だけ詰め込んで、子どもたちに「知ってよかったね」と言って終わってしまっている。それでは学びの本質からずれている。そこも追及できたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>武蔵野市の若者とお年寄りの独り住まいを比べると、お年寄りの方が圧倒的にごみの排出量が多いことが環境教育のひとつのヒントになっている。</p>

	<p>若年層は、市内の小学校が環境教育をやっているのので、その影響を受けている。お年寄りも私も含めて、道徳教育はあっても環境教育はなかった。そういう意味では年齢層を分けた教育、お年寄りには教育というと抵抗があるので、啓発という方が良いと思うが、そういう考え方が必要だと思う。私ども「クリーンむさしのを推進する会」でもテーマとなっている。</p>
委員	<p>武蔵野市のごみの問題は、単身者で社宅の方もいて、入れ替わりが早いので、なかなか減らないのではないかと言われていた。実態を調べたところ、高齢者の方の1人あたりのごみの量が多くて驚いた。</p> <p>昨年の12月、子どもたちは、環境について何が気になっているのかを知るために、中・高生のワークショップを行ったが、その際に「私たちは学んでいるが、大人が学んでいない」という意見が多かった。</p>
委員	<p>高齢者は1日家にいて、3食家で食べている。単身者は仕事をしているので、外食しており、家には寝るために帰ってきている。ライフスタイルが違うので、単純に量だけでは比較できないとも思う。</p>

2 運営のあり方について

発言者	要旨
事務局	<p>資料2「環境啓発施設の視察のまとめ」、資料3「運営の形態」、資料4「これまでの議論の振り返り」について、前回からの追記・修正点を説明。</p> <p>資料3は、第4回で事務局から、運営者の公募プロポーザルを提案したところ、直営の選択肢がなくなるのではという意見があり、事務局が示した資料の直営の範囲が広義になっていたため、わかりづらかったのではないかと思います作成し直したもの。事務局の考える「直営」が、あくまで市の職員が全てを担うイメージであることを示した。</p> <p>市の職員が建物管理だけでなく、事業も担うのは、専門性やスキルの面から、難しいのではないかと考えたのが発端。市の職員以外の方が、事業の一部、または全部を担うことを想定した場合、どうやってその方を探したら良いのかわからないという課題があり、広く公募を行うことを提案した。</p> <p>また、市が何らかの形で事業の一部または全部を担っていただくとなると、あくまで公正な選考をする必要があるので、その点からも、公募を提案した。</p> <p>なお、直営以外の分類に関しては、委託か指定管理かといった手法のことでなく、誰が運営に関わるのかという点に絞った方が、それぞれのメリット・デメリットが解りやすいと思い、こうした資料にした。委託なのか、指定管理か、また、別の形があるのかに関しては、これからの議論になるものと考えている。</p>
委員長	<p>今、説明があった資料について、質問・意見はあるか。</p>

委員	資料2の縦の二重線の仕切りは、どのような意味があるか？
事務局	2ページ目2段目の運営者の欄に記載している管理方法で、直営か委託か指定管理かによって区切っている。
委員	ランニングコストを入れるのは、大変苦労されたということだが、このように分けてもらえると、とてもわかりやすい。同じ事業費でも規模が違うことがよくわかる。できればコストだけでなく、収入も知りたい。直営の場合、歳入に、自主財源以外で国や都等からの補助があるのかも気になる。また、指定管理や委託の場合は、事業収入的なものがあるのかどうかを調べていただけるとありがたい。
委員長	そこまで出すのは、なかなか難しいかもしれない。
委員	確かに、指定管理者の <u>利用料金制</u> ※を使うか使わないかで、事業運営も全然違うので、わかったら解明できる部分があるが、利用料金収入については、なかなか公表されていない。 ※利用料金制：指定管理施設の利用に係る料金や自主事業の利用料・参加費等を、指定管理者の収入として收受させることができる制度。公益上必要な場合を除くほか、条例の定めるところにより、指定管理者が定めることができる。 なお、利用料金制を採らない場合の施設使用料は、指定管理者が利用者から徴収し、地方公共団体の歳入として納付することとなる。
委員長	板橋区の「エコポリスセンター」は、運営者が指定管理で、平成27年度から2年間と短い期間で変わっているが、理由は何か知っているか。
事務局	記載が間違っている可能性がある。平成27年度のリニューアルの前から学研が受けていた可能性があるので、調べたい。途中で変わったというのは、何かよほどの事情があるのか、こちらのミスなのか、確認したい。
委員長	2年で変わると、いろいろな人材が育つというところまでいかない。
委員	指定管理者制度は、法律にのっとった制度で、かつ指定管理者を決める場合は、議決が必要になるので、どの自治体も数年間おきに、かなり慎重に決めるため、2年で変わるのとは考えづらいと思う。
委員	多摩の「エコニコセンター」は、事業運営をNPO法人に委託しているが、委託の場合、単年度で委託契約をしているのか。豊田市も、一部建物管理の委託については単年度で委託しているのか。
事務局	委託なので、基本的には契約は単年度だと思うが、長期継続契約で複数年度にまたがって契約している可能性もあると思う。
委員	単年度会計なので、おそらく契約自体は単年度だが、契約事務規則みたいなところに、最長5年間延ばすことができる決まりがある。
委員	コンペで企画提案をして選定するのではないか。運営者が、もう少ししたらその時期がくるので、あと何年間は運営ができるという話を聞いた気がする。

<p>委員長</p>	<p>「西宮市環境学習サポートセンター」のLEAFは、事業等は1年契約でやっているが、基本的に複数年で、その間、事務局長がこまめに連携を取りながらやっている。</p> <p>西宮市と板橋区で異なっているのは、教育関係者が運営に関わっていないこと。西宮市の場合、教育次長が理事に入り、学校に理解してもらえるように、また、学校をサポートできるように仕組みを作っていた。地域の中でいろいろな組織と連携がとれる仕組みをつくることを委託という形で実施していた。それは、行政を知り尽くした職員が市役所を辞めてつくった組織だからできたことで、板橋区とは違っている。</p> <p>「京エコロジーセンター」では、エコロジーな知恵や取り組みのひとつとして、「エコ虫」マークがあり、子どもたちが「エコ虫」を探して歩いていくと、建物自体のエネルギーの使い方についても理解できる仕組みになっている。武蔵野市のクリーンセンターは、コジェネも使っているので、そのあたりも理解していただく施設にするかどうかということも、今後の議論に出てくるようにと思う。</p> <p>資料3の運営形態のほうで、何か質問はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>直営以外の「企業、環境専門の事業者」のデメリットの中に「コスト高」がある。これと、直営のデメリットの「コスト高」の意味は、同じか？</p>
<p>委員</p>	<p>直営の場合は、公的な人件費になるため、公務員の賃金体系の中で考えていけないといけない。そういう意味で、コストを下げるのが難しい。それがここでいう「コスト高」。企業の場合は、営利が入ってくるため、委託する際、企業の営利分を乗せて発注することになるので、それを「コスト高」といいたい良いかどうかは考え方だが、高めにならざるを得ないということで、両面「コスト高」と書いた。</p>
<p>委員</p>	<p>直営以外の中で比較すると、企業・環境専門事業者が、例えばNPO法人と比べるとコスト高ということではないか。直営と同じ表現の記載では、誤解が生じる。</p>
<p>委員長</p>	<p>その辺りを配慮して資料を読む必要がある。ただ、NPOでも、年齢やキャリアに応じて給料を払おうとすると、人件費はとて大きな課題。そこが世代交代できない要因になる。かといって非常勤を多用すると統一性がなくなるし、次の世代に繋がる人材育成ができないという課題にもなる。その辺もコストに含まれているということを読み解いていかないといけない。</p>
<p>委員</p>	<p>NPOはただ働きやボランティアが当たり前という考え方が世の中にあるが、そこを前提にしない方が良い。NPOに委託したら安くできるというのではなく、やる仕事の範囲で、ボランティアのインタープリターにお願いしても、市が直営でやっても、企業がやっても、NPOがやっても、時給1,000円で同</p>

	<p>じかもしれない。仕事の中身が同じであれば、労働に見合う対価も、同じで良いというのが、昨今の労働環境の流れ。同一労働同一賃金の方向なので、人件費を意識した「コスト高」ということは書かない方が良いのではないか。</p>
委員長	<p>資料は書いて配布されると、公のものとなるが、私たちの判断材料を提供してもらっていると考えたい。そういう現実も知り、エコプラザではどのような方式を取り入れたら良いのかを検討する一材料として、注意して取り扱ってほしい。</p> <p>私がお付き合いしているNPOは、ただ働きという発想はない。武蔵野市にもそうした考えはないと思うので、そこはきちんと考えていきたいと思う。</p>
委員	<p>私も委員長が言うように資料を見ているが、まだエコプラザがどのようなものを共有できていない状況で、「これだ」と選択することは難しい。しかし、今から、こういう情報・知識を得て、中身を議論していくことは大事だと思っている。資料2にまとめていただいたように、運営についても、施設によって中身はいろいろで、事業実施もあれば、清掃や、警備も含めて施設を運営しているケースもある。それを一括りに直営にするのか、指定管理にするのか、硬直的に考えるのではなく、それぞれのアクティビティに対して、どういった運営方式がふさわしいか、考えていくことが大切。</p> <p>実際に、最近では、かつて全部直営だった施設が、市として一番大事な事業は市が直営でやり、それ以外は指定管理者あるいは他の事業者任せるという選択をして、トータルのコストは下げて、市民に大事なサービスは市が責任を持って提供していくという選択をしている施設が出てきている。</p> <p>そういった議論をするためにも、エコプラザの中身がもう少しわかってこないで議論ができない。これは、情報として良い資料だと思うが、そういうことも頭に入れて検討していきたい。</p> <p>また、コストも、単年度のランニングコストを出しているが、評価する時は、施設のライフサイクルコストをトータルで見て、かかりすぎているかどうかを判断していくことが重要。現在そういう流れで公共施設のあり方を検討していく状況だと思う。例えば、エコプラザは、これから新規に投資してつくるものだが、次に大規模修繕をする15年後、20年後までのコストを踏まえて、運営方式、整備方式を判断することが大事だと思う。それを頭に入れて議論したい。</p>
委員長	<p>「武蔵野市方式」といった、住民参加で協議をしながら進めていくことは、エコプラザの運営においても、基本理念として譲れないと思っている。すべて完成したもので、指定管理を求めるのか、委託をするのかにもよるが、必ず住民の声は反映させていくという、メタボリズムの考え方が入っていくという基本方針は確認しておく必要がある。完成したものを丸投げにするのではなく、住民との話し合いの場を常に設けるといった形が良いと思う。</p>

委員	<p>松下先生は一昨年亡くなられたが、私もいろいろ教わった最後の世代だと思っているので、先生が貫いてこられた市民自治は、私の中にも染みついている。資料3のデメリットの欄の、直営以外の一番下に記載したように、やはり丸投げにならないように市民・事業者・市で構成する協議会を必ずつくって、やっている施設もあるし、エコプラザもそうならないといけない。誰かに投げるのではなく、協議会で事業者と話し合い、事業者にも、その意識を持ってやってもらうというのは貫きたいと思っているので、あえて下線を引いている。これは絶対に外せない。</p>
委員	<p>資料3のNPOと外郭団体のデメリットの上の段に、NPOでは環境全般を担える団体が少ないとある。また、外郭団体についても、環境を専門としている団体が無いとある。しかし、それならば、これからつくれば良いので、デメリットにする必要はない。</p> <p>また、それぞれの形態によって、NPOと外郭団体については、直営とセットにする方法もある。例えば、NPOを立ち上げる時に、市の職員が出向するということもあると聞いたことがある。折衷案みたいなものを上手に取り込むことも考えられると良いのではないか。</p>
委員長	<p>確かに、そういう場で人づくりを兼ねてやっていくことも大事だと思う。</p>
委員	<p>内部では、こういうセットでできないかという意見はたくさんある。ただ、やりだすと量が多く、きりがないので、資料上はシンプルにしている。</p>
委員長	<p>国でも課長レベルでの人事交流はある。2日前に来た環境省の方も研修でJICAに出向という形で、グローバルに国際交流、人事交流をされていて、国の政策に反映していく仕組みが、少しずつ積み上げられてきている。そういう文化をつくっていく必要もある。</p>
副委員長	<p>「武蔵野プレイス」に行ったが、あの空間はいろいろな年齢層の方が自分で勉強しているのが、とても良いと感じた。施設を考える時に、他の施設もそうだが、イベントをやらなくては行けない、何かインタープリテーションしなければいけないという脅迫観念に駆られ過ぎているのではないか。それでコストがかかるので、外注か直営かと形式を悩んでいる。武蔵野プレイスを見ていると、閉架式の図書館とは違ってオープンなので、イメージも違うし、ちょっとお茶を飲めたりして、割と現代的な図書館。人間が学ぶという根源的な行為を受け入れる施設として、非常に普遍的な形になっている。運営も、本を揃えて、貸し出して、という非常に単純なことをただ繰り返しているだけで、自分のニーズに合った知識をそこから引き出して、自主的にできるというもの。エコプラザも、環境問題について知りたいという時に、何かサンプルがあったり、本があったり、ほかの活動の記録があったり、いろいろなものがオープンになっているというのが良いと思う。住民が自分なりの知識レベルや疑問を解決する、</p>

	<p>その手がかりを見つけるガイダンスをするインタープリターが、「そういう情報はここにありますよ」というくらいの施設。無理やり何かを人に教え込むために、毎月ものすごい人を集めたり、お祭りみたいなものをして、何がわかったのかわからないけど、人はいっぱい来たね、みたいなことはやらなくて良いと思う。</p>
委員	<p>資料3で出たメリット・デメリットについて、白黒はつきりつけすぎていると感じる。担える団体が少ないのであれば育てれば良いという意見が出たが、そのとおりだと思う。デメリットを全部メリットに変える工夫・アイデアを出していく必要がある。メリットも、油断するとすぐにデメリットになりかねないので、逆転の発想で、デメリットをメリットにしていきたい。</p> <p>武蔵野市として、根本的に何をやりたいのかということが、わからなくなってきた。他の施設は、資料2の開設経過と主な業務で書かれているが、武蔵野市はどういうことをやりたいのかも、この会議で考えるのか。話し合いの進め方がわからない。</p>
委員長	<p>基本的にこの会議で決めて、また市民に広く意見を求めて、決めていくというのが、この会議の方針。最初から武蔵野市の方針があってということではなく、いろいろな立場の方の意見を交流しながら、何か決まったものではなく、メタボリズムの考え方で膨らませていくというのが方針である。</p> <p>武蔵野市は、成熟した住民自治を貫いている自治体で、それはクリーンセンターに傑出している。何十年と積み上げてきたものの成果で、その流れの中にエコプラザもあり、基本は産業廃棄物を増やさないということから始まったが、より良い市民の拠点として稼働していくように、その機能なども考えていき、それが市民の学びの場になり、やがて行動変容にまで至れば成功だと思う。</p> <p>近代では、多くの道具や物によって生活が営まれるようになり、ライフスタイルも時代とともに変革してきた。それによって、環境がどう変わってきたかということも、一緒に学習していく必要があると思う。エコプラザも、自由に来て学べる場になるというのが理想だと思う。</p>
委員	<p>資料2の「環境配慮設備」の表がさみしい感じがする。その施設の設備で、環境を示せるものがビオトープや屋上緑化や壁面緑化、緑のカーテンであったりするが、それに迫力があるかというところでもない。今、学校が廃校になった時の使い道として、市民が乗り込んでコミュニティーの場にしたり、ものづくりの場にしたりしている。エコプラザの場合、資源としての発想はプラットフォームを生かしたい、それ自体を環境材料にしたい。光熱費と、設備費など、ランニングがどのくらいかかるかに苦慮しているが、その前に、施設のあり方として、風を取り入れるのか、暑さを我慢するのか、空間の生かし方を考える必要がある。</p>

	<p>また、副委員長のイベントで頑張らなくて良いということに賛成。プラットホームも、空間としてあることが大事で、必ずしも環境だけでなく、雨天時の体操場として使っても良いくらいの発想で、相互乗り入れの考え方も良いのではないか。休みの日にお母さんと子どもが遊ぶ場所でも良い。しかし、この空間には、訴えるものがある。例えばビオトープを見れば、これは雨水で出来ているなどといったことがわかる、そういう繋がりをいかにつくれるかだと思う。</p> <p>まだ施設づくりの話には入っていないので難しいが、この表にある施設はおそらくすべて新設したものだと思うが、私たちは、廃屋をどう利用するか、そのあり方を考えていけたらと思う。</p>
委員	<p>メリット・デメリットをまとめた資料3は、一般的だと感じている。直営の「エコプラザ西東京」や「えこっくる江東」は本当に高コストなのか？専門性がないのか？この資料だけでは見えにくい。実際に、この施設ではこういった問題があるなどと、具体的に書いてほしい。加えてそれらの施設ではデメリットを解消する工夫をしていると思うので、それらがわかると今後の参考になる。</p> <p>また、団体に運営を委託するという話で、考えるべきことは、目的・ミッションと意思決定方法、ガバナンスの3つが重要である。それに、NPOであれば、誰が理事になるのか、会員になるのかで出来ること、考え方も違ってくる。市の方針に見合った団体を、この観点を考慮にいれて見つけていくのもひとつと考える。</p>
委員長	<p>全てを任せるのではなく、事業運営をチェックできるような体制をとる必要があるだろう。</p>
事務局	<p>内々に聞いた施設で公表していないデメリットをこちらで資料化して公表することは控えたい。</p>
委員	<p>今、クリーンセンターは、荏原環境プラント株式会社が運営している。新しいクリーンセンターになる前は、運転だけ行っていたが、現在は、エコマルシェなどのイベントも実施している。クリーンセンターの運営をチェックしている運営協議会でありながら、事業者がやっている事業のことがわからず、先日初めて所長と副所長が挨拶に来て、事業運営のシステムを知った。これまで、30年間の積み上げの中で、市とお互いに学び合ってきたパートナーシップを感じただけに、不信感を持った。運転のことはある程度は任せるしかないが、イベントについては、情報提供してほしい。クリーンセンターのことを身近に思っただけに、さみしさを感じる。</p> <p>エコプラザも、まったく関係ないどこかのNPOや企業が事業を行うことになった場合、当然運営協議会は必要だろうが、どうなるのかと思う。周辺住民としては、自分たちも一緒に育ったような親しみを感じているのに、急に遠く</p>

	<p>にいてしまうような、さみしい気持ちになる。</p>
委員長	<p>メタボリズムの考え方を投入しながらという形をとりたいと思う。そして、市民参加の武蔵野市の理念は絶対貫く。イベントを行うだけの組織に任せることはできないし、そういう公募条件は作りたくない。</p>
委員	<p>企業でも、戦略2割実行8割と言われるが、実際運営次第で、コストを含めて時代とともに変化させていくことはできると思う。</p> <p>気になったのは、前回「エコット」を視察した時に、「リサイクル工房を作ったら良いな」という発言をしたら、武蔵野市にもあると教えてもらった。</p> <p>イベントはあまりなくても良いような話が出ているが、相手の理解度に合わせた事業などは一定必要だと考える。</p> <p>また、副委員長がおっしゃったように、資料2を見ると、似たような施設が多いので、どこにもない施設をつくったほうが集客効果があるのではないかとも思った。</p>
副委員長	<p>一番言いたいのは、当事者能力、当事者責任とは何かということ。環境問題に関する当事者責任が委託できるかということ、委託できない。委託された方が、能力や責任関係なく、形式としてイベントを行うという行為はできるが、武蔵野市のごみ問題とか環境問題を啓発することへの責任や能力は、外注できない。では、外注できるものとは何なのか。それを分けて考えないと、丸投げになってしまう。責任まで丸投げできるのかということとできない。では何が残るのかということ、個別のケースに分解して抽出して、それを実行するのは非常に難しい。だから、本質的なところを、どういうふうに残すか。それで、図書館の話をした。やはり、本をそこに責任を持って配架するということが責任能力。それをごみ問題、環境問題に置き換えて考えると、そこに行政として、市民にオープンにすべきものを集めて、誰でも手に取れる形にするということ。それに責任をもっていることを表現する施設にする。非常に抽象的な言い方だが、そんなイメージを考えた。</p>
委員	<p>資料は、かなりざっくりと、直営か直営ではないかというものになっているが、これは運営形態のこと。機能については、多岐にわたっていて、さまざまな組み合わせになると考えている。単純化したのは、視察の結果を一覧するため。誰が責任を持つのかについては、市は絶対免れない。そして、松下先生から始まった市民自治の考え方は絶対に譲れない。これをどう組み合わせ、市が責任を持ちつつ、市民の皆さんの意見を組み合わせながら志していくという、その議論を次からしたい。</p>
委員	<p>メインは、アウトプットは機能の設計をすることが必要になる。今日気になったのは、図書館を例に副委員長がおっしゃっていたが、環境問題として、こちらから伝えたいことが伝わっているのか。図書館に本を置いておけば、みんな</p>

	<p>なが読みに来るのか。理想を言えば、みな意識が高くて、自己責任で、自分から情報を取りに行き、理解して意見を持ってほしいが、現実がそうならないから問題が残っていると思う。それを前提にしているからこそ、エコプラザなり、武蔵野市環境部なりが持っている役割は、情報の伝達をしていくことが最低限求められる。どう判断するかは人によって違うかもしれないが、知られていないことを知ったら、学びがあるはずなので、その機能は必要である。マイクロプラスチックのことも、気候変動の問題にしても、十分知られていない。ここの運営は、ある意味プレッシャーを感じて、責任感を持って伝えるということは仕事として、きっちりやっていく必要があると思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>基本は、インタープリテーションを来館者がどう感じ、持っている考える力をどう引き出すことができるか。すべてを展示するというわけではない。委託できるものと、できないものがあり、インタープリターとして、どう役割を担えるかということ。これが機能の話にも繋がっていく。</p> <p>ここには、新しいクリーンセンターをつくる時の協議会のメンバーも3人入っているが、その時の基本方針からずっと変わっていない。それを視野に入れながら、機能をどう深めていくか、議論していきたい。</p> <p>次回は10月。今日の資料の文字だけを読むのではなく、繋がりを視野に入れながら、どうあったら良いのかを考えてきていただきたい。</p>